

NEWS RELEASE

平成19年7月2日

電通創立106周年記念式典で高嶋社長が挨拶

－「新しい電通グループ」は、「デジタル」と「グローバル」を軸に進んでいく－

株式会社電通（高嶋達佳社長）の創立106周年記念式典が、7月2日(月)午前10時から東京本社と、関西、中部の各支社で開催された。東京本社の106周年記念式典は汐留本社ビル1階電通ホールで行われ、高嶋社長が所信を述べた。要旨は以下のとおり。



電通は、創立100年の歴史的な節目を挟んで大きな改革を進めてきた。成田社長のもとで株主上場や新社屋の建設など21世紀における電通グループの飛躍のために新しいインフラが構築され、続く俣木社長は価値創造パートナーのビジョンを掲げ、4・2・2戦略を推進し、遂にこの2007年3月期は連結売上高2兆円を達成することができた。

我々はここ数年、インターネットやモバイルを始めとするデジタル技術の進歩に対し、数々の布石を打って来た。しかし、デジタルを巡るビジネス環境の変化は極めて急速であり、決して安閑とはしてはられない。また、生活者とのより深いコミュニケーションを求めるクライアント・ニーズに応え、プロモーション業務が拡大する中では、企画力と実施力、コスト競争力と収益力のバランスを取りながら仕事を進める必要がある。さらに、加速するクライアントのグローバル化を視野に入れ、電通グループのビジネス・チャンスを実確なものとするためには、多くの施策を打たなければならない。

電通グループは、これまでも「国内広告市場」「広告周辺市場」「新市場」「海外市場」の4つの市場に焦点をあて、様々な施策を進めてきた。今後も、私たちのビジネス・チャンスが、これらの市場にあることは変わらない。一方、私は、個々の市場の枠組みを超えた大きな変化が始まっていると感じており、その変化の本質を見極めることが重要だと考えている。今一度、皆さんと現状を見直し、今後のあり方について検討していきたいと思っている。検討する上では、とくに2つの重要な切り口があると思う。

第一は、言うまでもなくメディアやマーケティングの急速なデジタル化である。

国内外を問わず、デジタル化は、マスメディア、プロモーション、コンテンツなど我々の多様なビジネスを貫いて着実に浸透している。今やインターネットやモバイルに関連する課題は、専門部署や専門会社だけの問題ではなく、電通グループが、すべての局面で関わるべきテーマとなってきた。すでに広告ビジネスにおいてデジタル技術は重要な役割を果たしており、業界や国境を越えた技術開発、その獲得競争が進展している。

いかにして、新たなコミュニケーション技術をクライアントの課題解決に活用し、ビジネスとして確立していくのかを、グループ全体で考え、実践していきたいと思う。

第二は、グローバル化である。

クライアントはビジネスをグローバルな視野で組み立て、実行している。今後、電通グループのあらゆる活動はグローバルな視点から見直し、クライアントと同じ目線で取り組んでいくことが必須だと考えている。国内事業と海外事業は一体のものであると一人ひとりが意識して仕事に取り組む時代になった。営業部門は、クライアントの海外展開に対するサポートと国内事業を一体として考え、メディア・コンテンツ部門は、自らの専門性を活用し、事業領域ごとに海外展開を検討していかなければならない。これは、グループ会社も同様である。海外拠点との連携を強め、グループ全体で海外事業を真剣に検討すべき時がやってきた。

この2つの点を踏まえながら、皆さんと大いに議論をし、新しい電通グループの成長のために具体的な実施プランを練り上げ、実行していきたいと考えている。

以上